

1. 職名・氏名 准教授・梅津千香子
2. 学位 学位 博士、専門分野 看護学、  
授与機関 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科、授与年月 平成31年3月

## 3. 教育活動

|                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>(1)講義・演習・実験・実習</b>     |  |
| ① 担当科目名（単位数）              | 主たる配当年次等<br>地域・在宅看護学（2年次2単位）、地域・在宅看護学演習（3年次1単位）、地域・在宅看護学<br>実習（3年次2単位）、在宅看護発展セミナー（4年次1単位）、卒業研究（4年次3単位）、緩<br>和ケア論（2年次第14回講義担当）地域包括ケア演習（D1前期後期2単位分担）看護理論（M1<br>前期2単位分担）                          |
| ② 内容・ねらい（自由記述）            | 保健・医療・福祉に関連する機関および多職種と連携しながら、質の高い在宅療養の実現に向<br>けて、在宅療養者とその家族の生活を地域で支える看護専門職者の役割を教授する。高齢社会<br>への対応を考慮し、介護保険制度を含む在宅療養支援の仕組みと医療依存度の高い療養者、終<br>末期療養者への支援につながる看護を学び、在宅療養生活の継続とその質を保障するための課<br>題を捉える。 |
| ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） | 学生自身が主体的に考える力を養うことを目的として、予習や復習等の授業外学習課題を設定<br>した。授業外学習の内容を授業内で確認し、学生の習熟度に合わせて積極的に質問を受け、学<br>生個々が自律して学習課題に取り組み、学ぶ力を高めることができるよう心掛けた。   |
| <b>(2)非常勤講師担当科目</b>       |  |
| ① 担当科目名（単位数）              | 開講学校名  |
| ② 内容・ねらい（自由記述）            |  |
| ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） |  |
| ④ 本学における業務との関連性（自由記述）     |  |
| <b>(3)その他の教育活動</b>        |  |
| 内容                        |  |
|                           |  |

#### 4. 研究業績

|   |
|---|
| <b>(1)研究業績の公表</b>   |
| ① 論文（査読あり）<br>（タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について）、掲載雑誌名（号数）、掲載（受理）年月日）<br>・慢性閉塞性肺疾患患者の終末期における訪問看護師の支援のプロセープロセスに生じるパターンによって変化する支援の様相一、単著、日本エンドオブライフケア学会誌 9(1) 2024年11月   |
| ②著書<br>（タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ）、出版年、出版社名）  |
| ③学会報告等<br>（タイトル、報告学会（大会）名（開催年月日）、共同報告者の有無（共同報告の場合は主たる担当箇所））<br>・慢性閉塞性肺疾患療養者の終末期における訪問看護師の支援モデルの構築、第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（2024年11月15日～11月16日）、研究代表者  |
| ④その他の公表実績<br>・慢性閉塞性肺疾患療養者の終末期における訪問看護師の支援モデルの構築、梅津千香子、第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会講演集、p.155、2024年11月  |
| <b>(2)学会活動等</b>   |
| 学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会（大会）名（開催年月日））  |
| 学会での役職など（学会名）   |
| 学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所）  |
| <b>(3)研究会活動等</b>  |
| ①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名（期間））<br>・福井県内における小児訪問看護の体制整備および質向上のための方策（2019年～）<br>・在宅看護実習における学生の学びの内容と主観的評価に関する実態調査（2019年～）<br>・地域医療支援病院におけるストーマ造設患者に対する在宅療養移行支援一病棟看護師によるストーマケア指導・日常生活指導の実施とその関連要因一（2019年～）<br>・慢性閉塞性肺疾患患者の終末期における訪問看護師の支援モデルの構築（2019年～）<br>・ビッグデータを用いた介護及び医療レセプト分析による疾患並びに状態別の最適訪問看護提供ケアパッケージの提案と自治体担当者向けの訪問看護実態可視化ツールの開発（2020年～）<br>・NDBや介護保険総合データベース等を活用した医療・介護特性を総合的に捉えたAIプロトタイプの開発と分析結果を根拠とした医療介護特性別の最適介入の提案（2022～） |
| ② その活動による成果<br>・慢性閉塞性肺疾患患者の終末期における訪問看護師の支援のプロセープロセスに生じるパターンによって変化する支援の様相一、単著、日本エンドオブライフケア学会誌 9(1) 2024年11月<br>・慢性閉塞性肺疾患療養者の終末期における訪問看護師の支援モデルの構築、第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（2024年11月15日～11月16日）、研究代表者   |
| <b>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</b>  |
| ・2024年度～新規 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）   |
| <b>(5)特許出願</b>  |
|   |

## 5. 地域・社会貢献

|   |
|---|
| (1)学外団体   |
| ①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）<br>・福井県訪問看護推進協議会委員、2022年～   |
| ②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）   |
| ③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）   |
| ④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）   |
| ⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等<br>（事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）<br>・福井県看護協会主催の実習指導者講習会における講義（担当科目：在宅看護実習の実際）  |
| ⑥その他（名称、活動場所、活動期間）<br>・福井市中央公民館主催・福井ライフアカデミー共催講座：エンドオブライフケアー人生最期の意思決定を考えるー AOSSA 6階 研修室 601BC 11月6日（水）14時～15時30分  |
| (2)大学が主体となっている地域貢献活動等   |
| ①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時）<br>・公開講座：第1回在宅における認知症高齢者の意思決定一家族に求められる代理意思決定についてー、2024年6月8日10時30分～11時30分<br>・公開講座：第2回在宅における認知症高齢者の意思決定一家族に求められる代理意思決定についてー、2024年6月15日10時30分～12時00分 |
| ②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時）<br>・大学説明会（看護福祉学部）福井県立福井商業高等学校、2024年7月22日   |
| ③その他（名称、活動場所、活動期間）  |
| (3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）<br>（活動内容、主たる活動場所、活動期間）  |

## 6. 大学の管理・運営

|  |
|--|
| (1) 役職 (副学長、部局長、学科長)<br>(職名、期間)  |
| (2) 委員会・チーム活動<br>(名称、期間)<br>・ 看護学科実習検討委員会 (看護学科内 2019年4月～)   |
| (3) 学内行事への参加<br>(行事名、参加日時)   |
| (4) その他、自発的活動など<br>(活動名、活動内容、活動期間)<br>・ 東京大学大学院人文社会系研究科 臨床倫理セミナー2024年8月4日オンライン参加<br>・ 東京大学大学院人文社会系研究科 医療・介護従事者のための死生学 夏季セミナー2024年9月15日オンライン参加<br>・ 東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会「Medical Humanities から Health Humanities へ—歴史的背景と現代的展開を中心にして」2024年10月9日オンライン参加<br>・ 東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会「医療安全と医療倫理 — 院内周知と教育」2024年10月23日オンライン参加<br>・ 東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会「医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける人文社会科学」2024年11月6日オンライン参加<br>・ 東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会「チームで取り組む、末期腎不全をもつ高齢者へのアプローチ」2024年12月4日オンライン参加<br>・ 東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会「認知症の人の最期のときを支える口腔と食 — Comfort Feeding Only まで」2024年12月18日オンライン参加 |